

# 自治会トピックス

## 金上駅線路沿いの花植え

### 大平

大平睦会（塩田真弘会長）では、毎年、春と秋にひたちなか海浜鉄道の金上駅線路沿いに花植えを行っており、今年も6月にマリーゴールド400本の苗を植えました。

この活動は今年で10年目となり、市とロータリークラブから支援を受け、水やり、除草などの管理は会員の手で行っています。

会員の高齢化が進み、作業中の事故や怪我も心配ですが、鉄道の利用者をはじめ多くの方に喜んでいただけるよう、続けていきたいとのことです。



## 自治会館 雨漏れ対策実施

### 柏野

昨年10月25日、その日は市議会議員選挙の準備日で、投票所として自治会館を貸出していたところ、雨量120mm、最大風速24m/sの雷雨に見舞われ、雨漏れが発生しました。2ヶ月前には落雷により、空調設備や照明設備が破壊され、修復を終えたばかりでした。

会館は平成9年に設置し、平成20年に雨漏れで屋根の塗装替えを実施しました。10年経ち再塗装を検討すべき時期に来ていたため、屋根及び壁の全面塗装替えによる雨漏れ対策を市の補助金も得て実施しました。

コロナウイルス禍の対策により、非常に多くの自治会活動等が停止され、暗い不自由な状況が続いています。この状態を打破すべく、会館のイメージチェンジを図りました。

明るく、楽しく、元気がよく、今後の自治会活動をより活発にするためのシンボルとして活用して行きます。



## 朝のあいさつ運動

### 和田町

私たち地元的那珂湊第二小学校は、PTAと地域内の4自治会が一緒になって“あいさつ運動”を行っています。あまり児童数の多い小学校ではないので子どもたちとは大体顔なじみ、ほかの自治会の子どもも分け隔てなく声を掛けると、明るい返事が返ってきます。私たちも子どもたちの笑顔に元気をもらっています。

校門前でみんなを待っていますから、おじさん、おばさんたちを見たら、いつものように元気に挨拶してくださいね！



## 変わる町内のシンボル

### 七町目

七町目自治会富士ノ上地内にある榎原神宮は、江戸前期1672年に建てられたもので、町内のシンボリック存在です。この榎原神宮の周辺が大きく変わろうとしています。

津波災害時の高台への避難路とするため、和田町常陸海浜公園線の整備が今年末の供用開始を目指し、進められています。今年3月には、神宮周辺の居住者7世帯が新造成地船窪地区へ移転しました。また、神宮の森も道路敷地として大きく削られ、神宮がコンクリート擁壁に囲まれました。

道路開通後は安全性や利便性は高まるものの、地元住民にとって、大鳥居と神社の森がなくなったことはどこか寂しい。一方、新たな景観も楽しみです。



## 編集後記

残暑お見舞い申し上げます。

新型コロナウイルスによる感染防止対策のため、長期にわたる学校の休業、緊急事態宣言の発出、そして自治会や地域における行事の自粛など今まで経験したことのないような上半期でした。

終息宣言が出されるまでの間、自分が感染しているかもしれないということ念頭に置き、新しい生活様式に従った行動を粘り強く続け、自分を、周囲の大切な人を、そして地域社会を守りましょう！！

自治会についての詳細情報は、市のホームページにも掲載されています。

<https://www.city.hitachinaka.lg.jp/shiminkatsudo/4/5/index.html>



# ひたちなか市自治会連合会だより

第68号  
発行日/2020年8月25日  
発行者/ひたちなか市自治会連合会  
広報委員会  
(事務局:ひたちなか市市民活動課)  
TEL 273-0111

## “コロナに負けるな” いざというとき、頼れる自治会

新型コロナウイルス感染症は、わが国でも多くの感染者が発生しており、緊急事態宣言を発出し様々な対策を講じてきていますが、まだ終息に至らず経済や日常生活に深刻な影響をもたらしています。

自治会連合会では、この感染症が蔓延している中、敬老会と夏祭りの開催について自治会の意向調査を行い、対応を協議しました。

その結果、開催を楽しみにしている方が多いものの、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を図るため、連合会としては敬老会と夏祭りの開催を自粛することとしましたので、ご理解賜りますようお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症に関連して独自の取り組みをしている自治会がありますので、その内容をご紹介します。

富士山自治会では、一人10万円が支給される特別定額給付金について、「和（なごみ）のまちづくり」の考えのもと、会員相互で助け合いながら円滑に交付申請できるように、郵送申請方式での申請のお手伝いをしました。当日、会館に14名の方が訪れ大変感謝されました。

上高場自治会では、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に会員が結束して取り組む姿勢を示すため、“コロナに負けるな”という標語ののぼり旗と、小学生たちと高齢者クラブの方々が書いたポスターを会館や往来の多い道路沿いに掲げています。

幸町自治会では、新型コロナウイルス感染症の予防のため、マスクを2,000枚購入し、自治会加入の163世帯に約12枚ずつお配りしました。マスクが品薄の時期でしたので大変喜ばれました。



給付金申請のお手伝いしている様子  
(富士山自治会)



佐和駅前ののぼり旗と自治会員の方々  
(上高場自治会)



自治会員にマスクを配布している様子  
(幸町自治会)

## ひたちなか市自治会連合会総会（書面表決で実施）

令和2年度ひたちなか市自治会連合会総会は4月24日（金）に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、書面表決で行いました。令和元年度事業・決算報告及び令和2年度事業計画・予算等の総会資料を83自治会長に配付し、「書面表決書」により各議案への賛否を諮りました。集計の結果、すべての議案について全会一致をもって議決承認され、副会長には藤咲武夫氏が任期途中で退任されたため、後任として近藤清二氏（枝川自治会）が選任されました。

# 新任自治会長研修会 5月22日(金)



湊泉町自治会  
会長 八木原 健一

研修では、市役所各部署による事業と、社会福祉協議会の事業等、自治会活動に関する内容説明を受けました。研修で感じた事は、高齢化・未加入・ゴミ搬出等、各自治会が同じ問題を抱えている事でした。高齢化は別として、未加入やゴミ問題は各部署と自治会が情報を共有し、対策を重ねる事で徐々に好転するのではと思います。今年には新型コロナウイルスの影響で、あらゆる行事が自粛や延期になりました。緊急事態宣言が解除になったとはいえ、まだ予断を許さない状況です。

当自治会では、市の対応を注視しつつ、自治会活動が滞る事のないように進めたいと思います。最後に、今回の研修は自治会長としての重責を再認識した意義ある研修でした。



六ッ野自治会  
会長 中井 孝

世の中には“2025問題”という言葉があります。団塊の世代全員が後期高齢者になる年であり、介護・医療費などの社会保障費の急増が懸念されています。

私たちの自治会も高齢化という点では例外ではなく、20年前200人ほどだった敬老会対象者が昨年は500人を超えました。先輩たちが作り上げた安全で安心なまちづくりのおかげで魅力あるまちが形成されてきました。私たちはその恩恵を受けて生活していますが、最近では高齢化の進行と共に当たり前にやってきた順繰りの仕組み等が経年劣化していると感じています。

そのようなことを考えている時に本研修を受講でき、行政の仕組みも少しは理解できました。5年後の当事者としては、今何をしなければならないのか皆様と一緒に考えていきたいと思っています。

## 新任自治会長紹介

12名の方々が新たに自治会長に就任しました。  
令和2年度(敬称略)

- 伊藤 政徳(西中根)
- 中村 誠(富士山)※再任
- 武田 和時(武田)
- 寶田 信幸(弥生西谷津)
- 澤島 雅晴(足崎)
- 安藤 始(足崎団地)
- 高力 秋宏(上高場)
- 中井 孝(六ッ野)
- 安田 貫二(堂端)
- 石村 寧敏(大島公園西)
- 八木原健一(湊泉町)
- 川崎 壽志(阿字ヶ浦)

## 自治会活動ガイドブック「おとなりさん」

—自分のまちを もっと・きっと好きになる—

自治会への未加入者が増えている、と言われてます。自治会連合会では、今年1月、全83自治会の加入率調査を行いました。自治会によって事情は異なりますが、市全体での加入率は※79.50%でした。この結果を、どう見るか？

自分たちが住んでいる地域を、もっと好きになりたい。自治会活動を知って、「おとなりさん」と、もっと身近になりたい。このように思っている方は、意外と多いかもしれません。

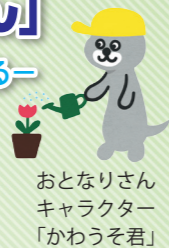
本連合会では、自治会活動ガイドブック「おとなりさん」と加入チラシを作成しました。

作成にあたって、高齢者及び子育てサロン等に関わっている方なども委員として参加し、貴重な意見をいただきました。キャラクターには、可愛い「かわろそ君」を採用し、見てみたいと思うような表紙です。

本市へ転入して来られた方、今まで自治会活動があまり見えなかった方などに、一読いただければと思います。自治会活動に、興味を持っていただき、入会のキッカケとなればと考えます。住みよい地域づくりは、私たち住民によって進められていくものです。

読んでみたい方は、各地域の自治会長へお話しください。

※自治会加入率については、住民基本台帳の世帯数ではなく、各々の自治会が区域内の世帯数を調べて(数えて)算出した数値となります。



おとなりさん  
キャラクター  
「かわろそ君」



自治会活動ガイドブック  
「おとなりさん」

## 市への要望書の提出

3月19日(木) 市役所

本連合会では市との協働のもと、自治会活動の更なる充実を図り、安全で安心な住みよい地域づくりを推進するため、大谷明市長へ要望書を提出しました。

- 1 高齢者の外出やゴミ出し支援、敬老会事業の見直し
- 2 防犯灯設置等補助の拡充、既存LED灯から新しいLED灯に交換する際の補助制度の創設
- 3 期日前投票の更なる啓発と周知活動、投票率の向上

要望を受けて、市では敬老会事業に関する検討委員会が設置され、本連合会からも委員として参加しています。また、令和2年度から新たに既存LED灯から新しいLED灯に交換する際の補助制度が創設されました。



大谷市長に要望書を手渡する自治会連合会役員

## 自治連コラム

## 人と人の絆

コロナ禍で先が見えない状況が続いています。夏祭り、花火大会等、人の集う行事は、感染防止の観点から軒並み「自粛」を余儀なくされています。各自治会においては役員会もなかなか開けない現状があることでしょう。今年の流行語に「ソーシャルディスタンス」「フィジカルディスタンス」が入るだろうと個人的には思っています。「ソーシャルディスタンス」といえば、「社会的距離」人と人の一定の間隔(約2m)を保つことです。

皆さんは、「ヤマアラシのジレンマ」を聞いたことはあるでしょうか。これは、ドイツのショーペンハウアーの寓話に由来し、概要は、次のようになります。

「冬の寒い日にヤマアラシたちは暖を求めて集まったが、近づくとお互いのトゲが刺さるため離れて過ごさなくてはならなかった。再び寒さが厳しくなると、ヤマアラシたちは集まったが、やはりトゲが刺さるので離れて過ごさなくてはならなかった。」

さて、何度も群れては離れを繰り返し、ヤマアラシたちは温もりのあるお互いの距離を知ることができたのでしょうか？

私たちは、いたずらに怖がることなく、安全な距離感でお互いを尊重し合いましょ。

私たちは知っています。人と人が、関わり合うことで「絆」が築かれることを。

## 自治会(長)の活動報告

### 田彦東公園が完成

田彦東のほぼ中央に待望の公園が完成しました。子どもの遊び場として、住民の健康づくりや憩いの場として、そして災害時の防災機能を備えた公園の建設は、自治会の長い間の要望でした。望みが叶い、市が推進する公園空白地対策事業として、街区公園第2号に採用され整備が決まりました。整備にあたり、自治会は当初から計画に参画し、住民の皆様に親しまれる公園づくりを目指して、住民説明会を開くなど、広く意見を取り入れました。公園を遊具と芝生の区域に分け、使いやすい配置にしました。遊具についても子ども会などの利用者と協議をして、市内初となる扇型滑り台や幼児が喜ぶ遊具を選定しました。芝生の区域は、走り廻ったり、ボール遊びやグラウンド・ゴルフ等が楽しめるような、大きな広場としました。



公園の芝張りには多くの方が参加しました

また、この公園は災害時の一時避難場所として使用できるよう、防災井戸の設置も予定しており、地域の防災拠点のひとつとして、防災訓練など今後の自治会行事への活用の広がりも期待しています。

自分たちの公園として、いつまでも思い出に残り愛される公園とするべく、7月5日に、市と協働で芝張りを行いました。100名程が参加し、開園後の姿を思い浮かべながら1枚ずつ丁寧に張っていました。8月1日には、開園を待ち望んでいた子どもの遊ぶ声や楽しむ多くの人たちの姿が見受けられました。今後は自分たちの愛する公園として維持管理し、大切に使用していきたいと思っています。

## 令和元年度 自治研修懇話会 情報交換会

高齢化の進行や時代の変遷に伴う価値観の変化などから、退会、未加入などの自治会離れが本市のみならず全国的に進んでおります。

そのようななか、1月24日に「将来に向けた自治会運営のあり方について」をテーマに情報交換会が開催されました。合同会社フォーティR&Cの水津陽子氏を講師にお迎えして、講師の豊かな経験から、「社会意識と町会の認識にギャップ」、「これからの自治会」、「自治会運営の見直し」などの事例を中心に講義と質疑が行われた後、会員がグループに分かれ、それぞれの現状をもとに今後の課題等を討議し、情報交換を行いました。グループごとの課題と展望を発表し、これからの自治会運営に対する一つの光明を見出す良き研修が行われました。

